

課長	課長補佐	係長	係	記録

【所属名：文化振興課】

【会議名：第3回文化財保護審議会】

■開示

一部開示（理由：条例第 条第 号該当）

不開示

時限不開示（開示： 年 月 日）

会 議 録

作成日 令和2年3月24日

日	令和2年3月18日	時間	13:30 ~15:00	場所	市民会館3階会議室
内 容	1 あいさつ 2 報 告 (1) 長者ヶ原考古館特別展について（資料No.1） (2) 長者ヶ原遺跡発掘調査整理指導委員会について (3) 文化財防火デー消防訓練について（資料No.2） (4) 能生歴史民俗資料館屋根応急修繕について（資料No.3） (5) 埋蔵文化財試掘調査について (6) 名勝おくのほそ道の風景地「親しらず」の整備について（資料No.4） (7) 寺地遺跡出土丸木舟について（資料No.5） (8) 文化財指定記念講演会について (9) 市内所在文化財の県文化財指定予定について（資料No.6） 3 令和2年度の計画事項について（案） (1) 県埋蔵文化財センター春季企画展について（資料No.7） (2) 埋蔵文化財調査について（資料No.8） (3) 文化財指定候補について 4 その他 (1) 新型コロナウイルスに係る市対応について (2) その他 5 閉 会				
出席者	【出席】吉田会長、井伊副会長、五十嵐委員、小掠委員、倉又委員、室川委員 【欠席】池亀委員、佐藤委員、吉倉委員 【事務局】井川教育長、伊藤課長、伊藤課長補佐、山岸学芸専門員、長谷川主査、小池学芸員				
	傍聴者定員		-人	傍聴者数	0人

会議要旨

（進行：課長）審議会規則の規定により半数以上の出席により開会

1 あいさつ 教育長

新型コロナウイルスの市の対応について、会合など中止、自粛で、市内経済にもかなり影響が出始めている。文化協会フェスティバルが中止と非常に残念である。

小中学校は、3月3日～24日まで臨時休校措置をとり、放課後児童クラブの開設もしている。学習への影響、ストレス、生活リズムの崩れ、電子メディアへの依存など、新年度が心配である。1日も早く収束し、通常生活、文化活動ができる日が来ればよいと心から願うところである。

2 報 告 ※議事進行については吉田会長が議長となる。

(1) 長者ヶ原考古館特別展について

【事務局】今年度は国史跡寺地遺跡展を開催。10月以降は入館者の少ない時期だが、期間中1734名が入館。調査は昭和40年代から始まり、平成15年頃から新幹線、帝石パイプライン工事などに伴う発掘調査により出土した新たに発掘された遺物等も展示。

入館者数は例年9,000人台で、今年度は1万人を超える勢いで喜んでいたが、ここへ来て新型コロナの影響もあり、残念ながら9,000人台で止まりそうだ。

1月11、12日には、県埋蔵文化財センターをはじめ、大学教授、研究者など30名ほどが集い、寺地遺跡検討会が開催された。新たな出土品として、大変貴重な資料となる縄文丸木舟が確認され、意見交換された。

(2) 長者ヶ原遺跡発掘調査整理指導委員会について

【事務局】令和3年度の報告書発刊を目指し作業を進めている。遺構、石器石製品、土器土製品の実測、トレース、図版整理などを進めており、何とか間に合いそうな状況。

3月に委員会を予定したが、こちらも新型コロナの関係で中止となった。

【委 員】(1)、(2)に対する質疑は特になし。

(3) 文化財防火デー消防訓練について

【事務局】伊藤家住宅を会場に消防訓練を実施。隣の鬼伏の建物から出火、強風で伊藤家への延焼が懸念される想定。伊藤家西側の防火空き地に設置した移動ドレンチャーによる延焼防止訓練のほか、屈折はしご車、ドローン火勢確認訓練が行われた。

【委 員】時間的にはどれくらいだったか。

【事務局】概ね1時間程度。昨年暮れ、鬼伏の火災の際に伊藤家も非常に心配されたが、訓練により安心されたようであった。消防本部ではこの訓練に先立ち、伊藤家住宅の防火計画を策定し、事前説明など伊藤家と連携を図り実施した。

【委 員】現在、伊藤家に防火施設はあるか。

【事務局】避雷針がついているほか、住宅内の居住区域に住宅用火災警報器があるが、重要文化財なのでさらに数を設置しなければならない。

【委 員】写真に、放水による防火カーテンのようなものがあるが、あらかじめ設置されていないということか。そうすると、火災発生後これを持ってきて消火するということか。

【事務局】設置型は費用が相当かかる。これは消防本部が自作したもの。初期消火は40mmホースを配置しており、住民による訓練も行い、火災の際には協力いただくこととなる。

(4) 能生歴史民俗資料館屋根応急修繕について

【事務局】雨漏りを2か所確認している。市では葺替えの方向で進めているが財源確保に時間がかかり、市内工務店に相談しトタンによる部分的応急修繕を実施した。

【委員】 前回の葺替えはいつ行われたか。

【事務局】 中野口の茅葺職人の吉田さんが健在の平成 23 年頃までは、毎年、少しずつ差し茅を行ってきたが、全面的な葺替えについては記録が見つからず、はっきりしない。

【委員】 雨漏りはいいとして、台風などでトタンが風にあおられないか。

【事務局】 風の対策についても絶対ということは言えないが、業者に確認の上、対応した。

【委員】 業者はどこか。

【事務局】 何社か確認したが、唯一茅葺替えの経験のあった笠原工務店にお願いした。同社は吉田さんと仕事をしたことがあり、ノウハウも引き継いでいる。

【委員】 白山神社も、吉田さんが亡くなるまでは差し茅で対応してきたが、職人がいなくなったため、全面葺替えをすることにした。

【委員】 建物を残すか残さないか、市の方針は決まっているのか。

【事務局】 残す方向で考えており、財源の確保と準備を進めたいと考えている。文化財に指定されておらず文化庁の補助金は見込めない。躯体調査もしたが、問題なしとの診断。

【委員】 今後、職人もいなくなり、工事費も上がってくるのでやるなら早い方がよい。

【教育長】 教育委員会としては、早めに財源を確保して建物を保存したい。

(5) 埋蔵文化財試掘調査について

【事務局】 下早川あわら地区と今井向田地区を調査。あわらは、遺跡等は確認されず。向田は、すぐ傍を虫川が流れ、土石流が堆積するなど遺跡等は確認されず。下早川については、残っている調査区域を来年度調査する。

【委員】 特に質疑等はなし。

(6) 名勝おくのほそ道の風景地「親しらず」の整備について

【事務局】 3 か年計画の 2 年目。令和 2 年度は転落防止柵 81m と大懐の樹木伐採工事を予定。芭蕉の歩いた道は波に侵食され追体験できず、上から見えるように伐木、整備する。転落防止柵は高さ 90 cm を 110 cm に更新する事業。事業完了後、見学会を予定したい。

【委員】 検討委員会のメンバーであったことから、年々確実に整備が進められ、より充実したものになるというのは大変うれしい。見学会も楽しみにしたい。

(7) 寺地遺跡出土丸木舟について

【事務局】 平成 25 年の帝石パイプライン調査時に出土し用途不明となっていた木片で、昨年 10 月、県埋蔵文化財センターにより丸木舟と判明。縄文丸木舟は県内 2 例目、縄文時代晩期前葉、3,000 年ほど前のもので、杉製で前後欠損している状況で発掘されたもの。6 m 以上の大型の丸木舟である可能性が考えられ、田海川の礫がかなり混ざる下層から見つかっており、船が停留した場所と考えられる。大型でヒスイ運搬等に用いられていた可能性もあり、縄文時代の交易を知る上で画期的な資料であると考えている。

【委員】 県内の事例では一番古いものとなるのか。

【事務局】 新発田市青田遺跡のものは、縄文晩期末葉なので寺地遺跡の方が古いと考えられる。

【委員】 縄文の丸木舟作りの技術を知る上で重要であるとのことだが、工法について推定されるものは。

【事務局】外面は腐っているが、内面は細かく磨製石斧で削った跡であることが確認できる。寺地遺跡や長者ヶ原遺跡で作られた磨製石斧は全国に運ばれたことがわかっている。高度な技術で作られた磨製石斧を使って作られた丸木舟であることがわかる。

【委員】焦げた跡や火を使ったということではないということ、割り貫いたということか。

【事務局】そのとおり。

【委員】縄文時代の丸木舟はすべて割り貫きか。それ以外の工法はあるのか。

【事務局】これまでの発掘では一本の木を割り貫いたものがすべてとなる。

【委員】寺地遺跡発掘出土品を整理している中で見つかったということか。

【事務局】考古館で特別展を実施していたところ、県埋蔵文化財センターでも企画展を実施したいとのことから、調査をした過程で確認された。

【委員】さらに出てくる可能性は。

【事務局】今調査で見ついているものはこれだけとなっている。

【委員】まだ掘れば出てくる可能性はあるが、発掘調査の予定はない。

【委員】いつから用途不明だったのか。

【事務局】環状木柱列の柱ではないかと考え、とりあえず保存処理と年代測定をしておいた。

【委員】何時の調査で見つかったものか。

【事務局】平成 25 年の帝石パイプラインのヤード建設に先立ち発掘したもの。

【委員】木片は糸魚川市の所有ではないということか。

【事務局】市の所有になっている。今後、市で展示も可能。

【委員】丸木舟の復元をして、考古館に展示するということもありか。

【事務局】2月20日に報道発表してから2週間で200名ほど見に来ていただいた。復元展示するとスペースの問題もあるので工夫して展示したい。

【委員】国の史跡に指定されているが、丸木舟の破片も史跡の一部として含まれるのか。

【事務局】史跡として指定されているのは場所であり、遺物が指定されているのは昭和43年から調査の行われた260点が県文化財に指定されている。

【委員】全国的に一番古いものはどれくらいか。

【事務局】千葉県市川市の縄文時代早期のもので7500年前のものが一番古い。

【委員】広い範囲でヒスイ交易が行われていたことがわかっているので、海の近くで出たということはそういうことにつながるのかとも思うので、今後も期待したい。

(8) 文化財指定記念講演会について

【事務局】12月25日指定の内川屋文書「前田出雲守金子借用証」の講演会を計画したが、新型コロナの影響を考慮して延期とした。新聞5社から報道され、興味ある方も多いのではないことから、6、7月になるかもしれないが再度計画したい。

【委員】特に質疑なし。

(9) 市内所在文化財の県文化財指定予定について

【事務局】田伏玉作遺跡が2月10日の県文化財保護審議会で答申、3月末に指定される運び。昭和40年代に出土した210点が県指定になる。市内の県指定有形文化財は12件、市内の国、県、市、登録文化財含め総数が157件に。同遺跡は、県営田伏住宅内にあり、調

査後、出土品は考古館で保管、展示している。今後、考古館での展示会も予定したい。

【委員】長者ヶ原考古館に何点かは展示されているか。

【事務局】展示されている。日報、朝日にも掲載いただいた。

【委員】正式に指定されれば、新しくこの表に載るということか。

3 令和2年度の計画事項について（案）

(1) 県埋蔵文化財センター春季企画展について

【事務局】平成26年度県指定資料が主で25年に発掘された丸木舟なども展示予定。シンポジウムで小池が講演するほか、木柱の樹種や年代測定をした福島大木村教授のほか、中部大長田先生など、1月11日、12日に当市で開催の検討会に参加者による講演が予定、検討会での成果をお話しいただける。今月末まで休館中。4月10日からの予定。

【委員】是非講演を聞きたいが、他と重なり参加できない。市でも同様の講演会が開けないか。文化協会の講演会も中止し、寺地遺跡発掘に関わった小島幸雄さんの講演会をぜひ再度計画したい。市と共催で小島さん以外の方々も交えて行えないか。

【事務局】木片が丸木舟であるということ荒川さんから特定していただいた。そういう方をお呼びして地元でも開催したい。

【委員】「マツリ」とカタカナにしてあるのは何か理由があるのか。

【事務局】県がネーミングしたので本当のところはわからないが、現代の祭りとのニュアンスの違いを表したかったからではないか。

【委員】落ち着いたら、地元で、展示会、講演会が行われたらいいと思う。

(2) 埋蔵文化財調査について

【事務局】県営農地環境整備事業の試掘予定地が3か所ある。あわらは今年度予定の半分が残っているので予定している。西海地区、海川右岸の坂井地区坂井A遺跡がある。上流川島地区、遺跡は見つかっていないし、遺跡の有無がわかっていない地区。

【委員】最近、大きな発掘はないのか。

【事務局】試掘で何か見つければ、本発掘になるが、平成25年度の寺地遺跡以降ない。

(3) 文化財指定候補について

【事務局】みなさんからの情報があればということから議題にさせていただいた。

【委員】特に思い当たるものはない。

【事務局】市天然記念物の根知の枕状溶岩だが、国の指定に向けてレーザー測量を行っている。

【委員】静岡構造線の露頭工事に伴い特別委員会が設置されたが、去年は一回しかやっていない。下に通れる道があり、落石を防ぐ屋根がありよく見えない。それをどうするか結論が出ていない。取り払って見やすくするとか、山の方に道を作るとかいろいろな意見が出たが、決め手に欠けている。

【議長】指定候補について、市民や文化団体等からそういう情報はないか。

【委員】ない。

【議長】情報があれば、事務局にお願いしたい。

4 その他

(1) 新型コロナウイルスに係る市対応について

【事務局】別紙資料に基づき説明。

【委員】天津神社はどうか。

【事務局】月末に会議で決定する。神事はやりたい意向のようだ。

(2) その他

特になし。

5 閉会

【副会長】新型コロナウイルスが早く収束して、通常的生活、文化活動ができるようになることを祈る。